



図 9. 鬼怒川での獲個体における行動軌跡 (8/3~8/6)

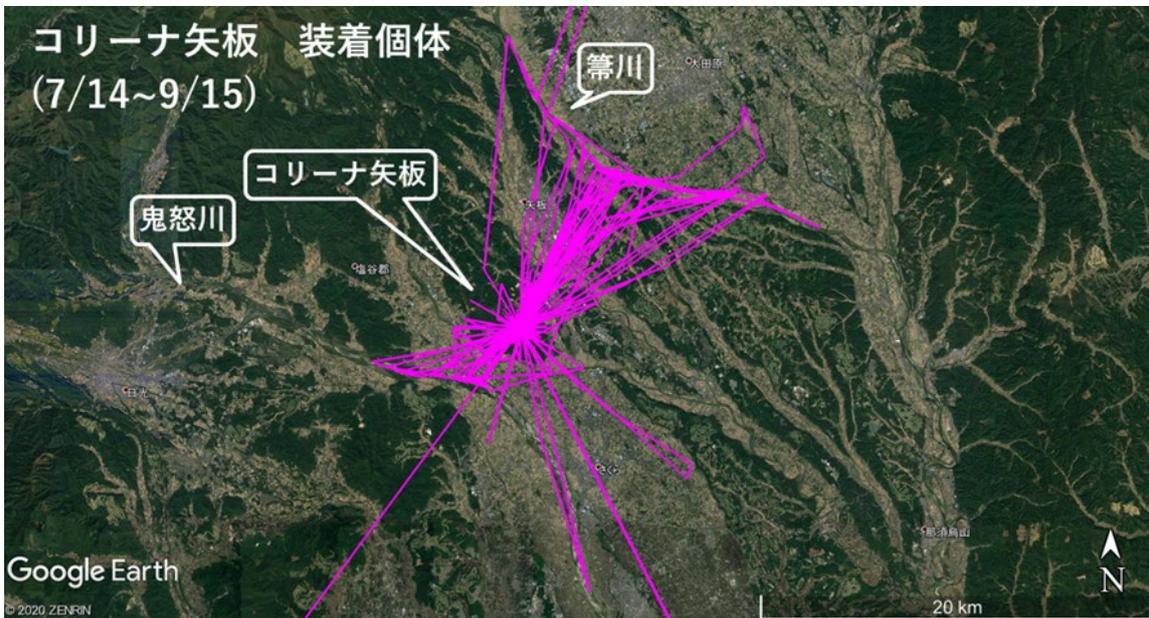


図 10. 矢板コリーナでの捕獲個体における行動軌跡 (7/14~9/15)

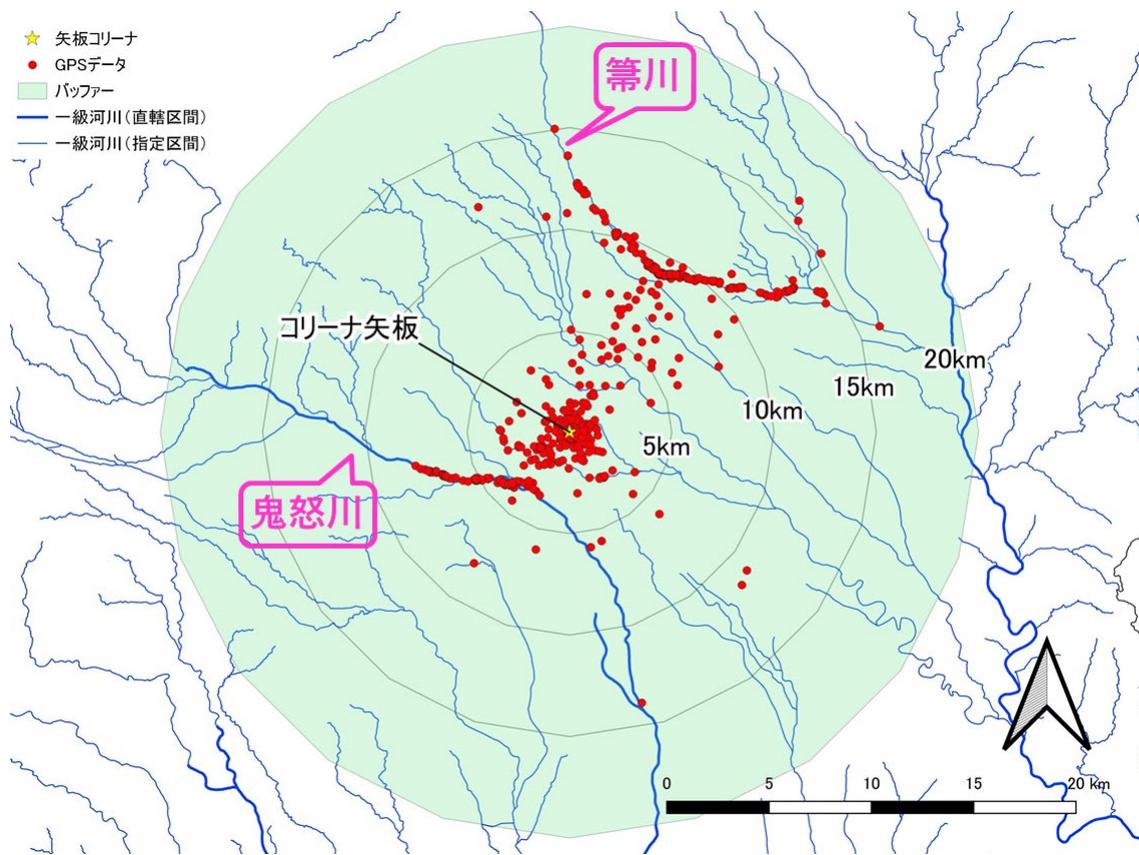


図 11. コリーナ矢板より 5 km ごとのバッファと GPS データ

## 2) ねぐら・コロニーの生息データと漁場における飛来調査データの分析

変数減少法による重回帰分析の結果を表 2 に示す。ベストモデルとして選択されたのは、被害地点から 15 km 圏内にある内陸のねぐら・コロニーの生息数と箇所数、そして被害地点からねぐら・コロニーまでの平均距離であった。各係数は、内陸のねぐら・コロニーの生息数が 0.031、個数が-0.082、平均距離では-2.74 であった。これは、被害地点から 15 km 圏内にある内陸のねぐら・コロニーの生息数が多く、箇所数は少ないほど、そして、平均距離が近くなるほど、河川 1 地点に飛来するカワウの羽数が増えることを意味している。内陸のねぐら・コロニーにいる生息数が多いほど、そして、ねぐら・コロニーから採餌場所までの距離が短いほど、多くのカワウが飛来するというのは、予想通りの結果であった。しかし、ねぐら・コロニーの箇所数が多いほど、多くのカワウが飛来すると考えられていたが、分析では、箇所数が少ないほど、河川にカワウが多く飛来するという結果となった。本分析は、従属変数を 1 つの被害地点あたりの平均確認数とした分析であったため、内陸のねぐら・コロニーの箇所数が多いほど、カワウの飛来場所が分散してしまい、被害場所が拡大してしまった可能性が考えられる。